

様式(細則 5-2)

令和元年 11 月 14 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 三浦 大紀



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 令和元年 10 月 31 日 (木)

2. 調査視察内容

コミュニティスクールの現状について

案内人：・大畑伸幸 (益田市教育委員会 ひとつづくり推進監)

・谷上元織 (益田市教育委員会 派遣社会教育主事)

・大石学 (益田市立豊川小学校校長)

・市川恵 (益田市立豊川小学校社会教育コーディネーター)

内容：学校の施設活用方法、地域住民の関わり、組織 など

3. 視察先 ・益田市立豊川小学校

4. 調査経費 0 円

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり





## 【調査研究活動の概要】

### ●視察テーマ

コミュニティスクールの地域に与える影響・効果

- ・地域と学校の関係構築にあたって事業設計の手法を参考にする
- ・環境整備のために必要な行政サポートを参考にする
- ・浜田市における小中学校の統廃合問題における学校のあり方検討の参考にする

### ●訪問者

浜田市議会議員：佐々木豊治、柳楽真智子、上野茂、三浦大紀

### ●レポート・メモ

キーワードメモ：

- ・豊川小学校は益田市で第1号のコミュニティ・スクール
- ・地域交流スペースが校内に配置されているのが大きな特徴
- ・「学校が地域のよりどころになるといい」という考え方と、学校にとっての社会に開かれた教育過程の実現（よりよい学校教育）の実現がマッチ
- ・コミュニティスクールというよりスクールコミュニティ  
(地域とともにある学校づくり / 学校を核とした地域づくり)
- ・保育園と公民館が隣接している立地も好影響
- ・学校を残せというなら、自分たちが何をすべきかを考えた
- ・夏休みもほぼ毎日学校で教室がある。\*地域の方々が講師
- ・とよかわっしょい（卒業生の中高生）が関わり続けている
- ・益田市：小学校は残すという明確な方針あり \*中学校は統廃合



メリット（社会に開かれた教育過程の実現）でうまくバランスがとられている。個人のスキルやキャラクターも影響大のため、事業の質と関係性をどう担保するかが重要。

#### ▶□組織編成

地域組織の「つろうて子育て協議会」や、地元の中学生在が卒業後にも地域に関わろうとつくれた「とよかわっしょい」という活動がベース。活発な活動の理由は、「地域をどうしていくか」という強い主体性に起因している。

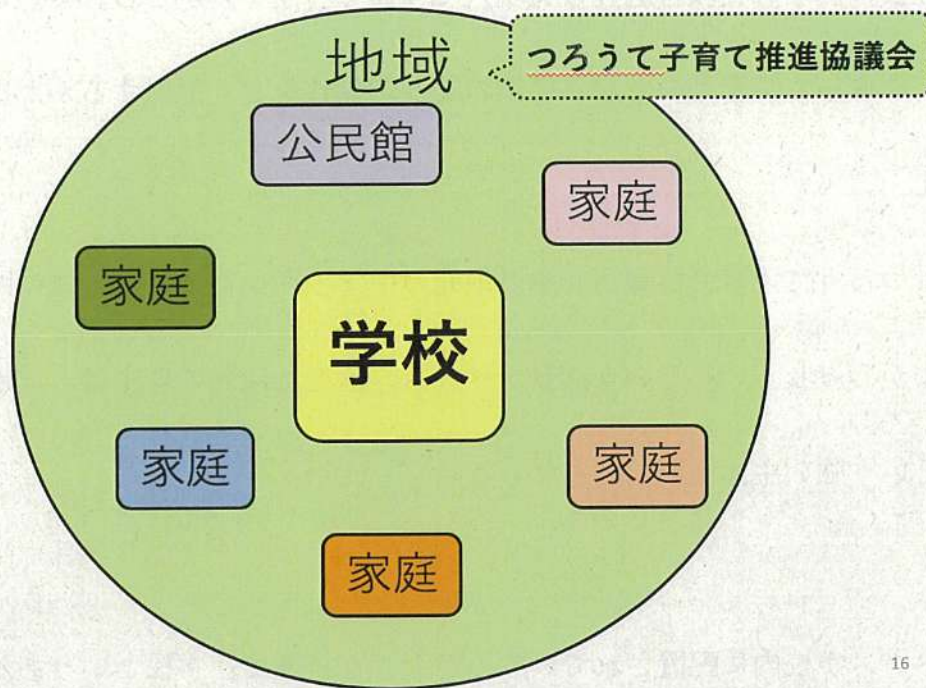
#### ▶□施設

地域交流スペースが校内に配置されているのが大きな特徴で、学校というある種独立した空間が非常にオープンな場所となっていることに驚く。分断されがちな各セクターを物理的にも交わりやすくさせている。

豊川小学校をモデルに今後、益田市全域で、こうした学校教育と社会教育がバランスよく融合した人材育成が展開されていくことには大きな期待がもてる。小学校の規模や地域の方々の意識も様々な中で、どのような制度を設け、それを浸透させていくための戦略については当市も学ぶところが多いと考えられ、引き続き注目していきたい。一方、こうした取り組みが生徒たちの意識変化にどのように起因しているかといった調査は益田市においてもしっかりとされていない（担当者は必要であるという意識をもっておられる）。学校教育の学力調査や将来の進路希望調査等も含めて、どういった関連事業が、市として最適な投資効果を生むかはしっかりとした検証が必要である。浜田市において展開される教育事業、とくに「ふるさと郷育」においても同様の検証を求めながら、教育環境整備に対して提案していきたい。

以上





16

\*学校を中心としたコミュニティのイメージ  
- それぞれ市川氏のプレゼン資料より抜粋 -

### 【所 感】

平成 27 年 12 月に示された、中教審の『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について』では、「地域の人々が集うことで、学校が、社会的なつながりが得られる場となり、地域のよりどころとなる。」と記されているが、まさに、学校を核とした地域のモデルをみることができた。大きなポイントは、各セクターをつなぐ CD の役割、地域組織のあり方、そして施設の活用方法という 3 つであった。

### ▶□社会教育 CD

分断されがちな地域、行政、学校というそれぞれの社会を繋げる役割として機能している。地域にとってのメリット（学校が地域のよりどころになるといいな）と、学校にとっての



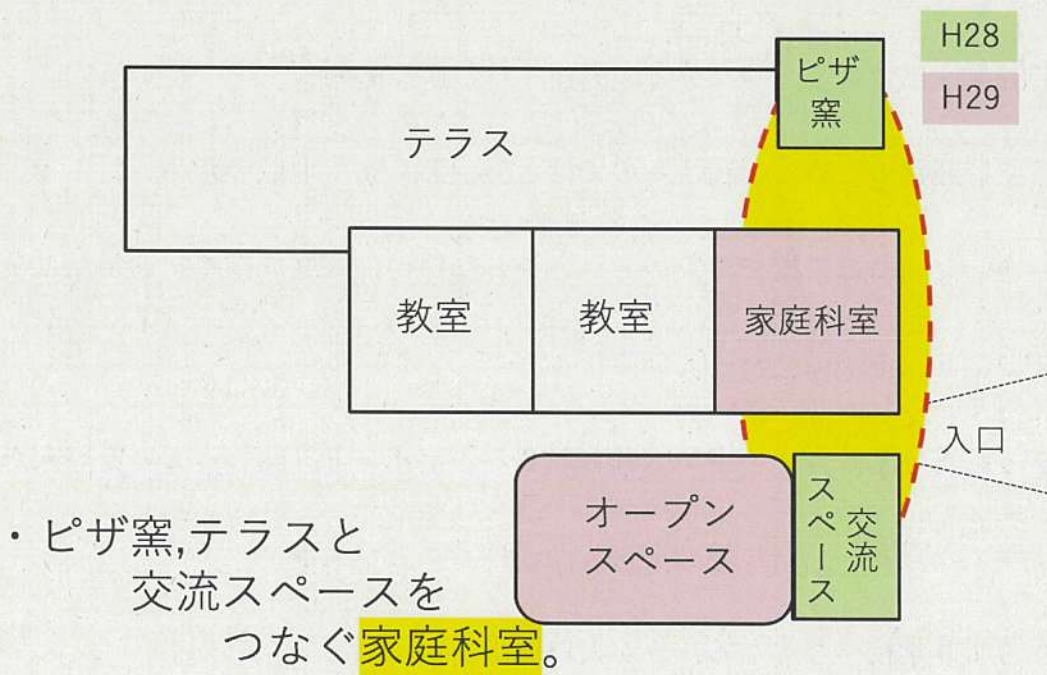
・積み重ねているという実感をみんなで共有しつづけることが大事



\* 夏休み教室の様子



\* 生徒たちが張った地域交流スペースの壁紙



\* 小学校に内包された公民館



- ・学校を学校のためだけで考えない

- ・豊川の事例があったので、市全体で取り組むという提案に、議会も執行部もスムーズに

## 賛同

- ・学校を残したいという理由で通したわけではなく、こんな地域に住みたいという人々がいるということを利用にした

- ・学校での新たな価値づくりが必要

- ・CD だけではだめで、明確なパートナー（行政、地域）がいることが大事

- ・CD は学校に席があることで、先生とのコミュニケーションがスムーズ。地域住民の一人として地域活動にも出ている。つなぐという仕事には両方必要

- ・運営協議会は学校運営のために存在するのではない、あくまで地域のため

- ・学校であいさつしない時は学校で、家であいさつしないのは家庭で指導。通学路は？ここは地域の責任であり、そこに関わっている

- ・地域の方々をどれだけ話し合いの中に入れられるかがポイント。関わっていない人が入ると本質的な議論にならない。常に地域を耕しつづけることが大事

- ・病院がなくなるより学校がなくなるほうが人口流出多い

- ・ふるさと教育（情報の提供）だけでは将来的にここで暮らしたいとは思わない。活動が必須。

- ・教育は長期的な課題を解決するもの

- ・教育に関わる人材の獲得について：若者には定住を条件にしていない。自分のやりたいことが実現できる場を提供できるようにしている